



早稲田大学博士課程教育リーダーシッププログラム  
Waseda University Program for Leading Graduate Schools

実体情報学博士プログラム  
ニュースレター

Graduate  
Program for  
Embedment  
Informatics



# Newsletter Vol.03

## 他大学リーディングプログラムとの交流

コミュニケーションや議論のスキル向上、また、学生間の交流を促進するために、他大学のリーディングプログラムと連携し、共同でイベントを行っています。

### —情報系4大学リーディング学生交流ワークショップ

(2015年4月11日 名古屋大学にて開催)



4大学混成チームで報告内容を検討しました。

平成25年度に複合領域(情報)において博士課程教育リーディングプログラムに採択された4大学(名古屋大学、豊橋技術科学大学、筑波大学、早稲田大学)による合同ワークショップが開催されました。

名古屋大学の実世界データ循環学リーダー人材養成プログラムが誇る学びの場である「リーダーズサルーン」を見学させていただいた後、全部で10の各大学混成チームに別れ、「名古屋大学実世界データ循環学とのコラボレーション」という大テーマのもと、共同

研究立案のためのコミュニケーションのあり方や、国際連携、情報発信・共有といった観点から議論を行い、結果の発表・審査が行われました。発表会終了後の意見交換会では、各所で盛り上がりの輪ができ、交流と友情を深めました。

この交流ワークショップは、年次シリーズとして幹事校持ち回りで継続される予定となっています。

### —Tsukuba-Waseda Joint Summer School (Let's Debate)

(2015年8月1日・2日 早稲田大学にて開催)

酷暑の時期でしたが、当プログラム・工房に、筑波大学エンバウメント情報学プログラムの学生・先生方をお招きし、ディベートを主体とするサマースクールを開催しました。

ディベートのテーマは、

- (1) リーディングプログラムの活動は必須であるべき・あるべきでない
- (2) リーディングプログラムでは修士論文は義務であるべき・あるべきでない
- (3) リーディング生は彼氏・彼女を持つべきだ・持つべきでない

という3つでした。リーディング生としての研究活動のあり方や所属研究室での活動との両立の仕方、研究モチベーションの維持・向上などといった観点から、着眼点を見出し、得られた発想を論理にまとめていく良い機会となったようです。なお、このイベントも上記の4大学合同ワークショップと同様に、英語を公用語としたため、英語での論理展開や説得といったスキルの必要性への気付きとしても有用であったと思われます。

ところで夕方の意見交換会ですが、このイベントでは何と両日の開催となり、両大学の学生・教員入り混じっての賑やかな会となりました。



ディベートは、すべて英語で行われました。





